

ガゴしま 市政だより

今後一層の協力を

明朗で住みよい市のために

その日の勝目市長

待望の伊敷、東櫻島兩村の編入は十月一日實現。この日、照らす曇らすの稀にみえる上天氣に、盛大な記念行事が繰り繰り進められたが、以下は記念式場—中央公民館における市長の挨拶。

本日、ここに、多年の要望であつた伊敷、東櫻島兩村の鹿兒島市編入が實現して、新たに三万人の市民の方々を、お迎え致しますことは、まことに喜びに堪えない處で御座います。

鹿兒島市に伊敷、東櫻島兩村は行政上の區劃こそ、従来別になつてまいりましたが、経済上は勿論、交通關係、住民の日常生活、個人的關係、その他すべての面において、お互いに密接不可分の關係にありましたことは御承知の通りで御座います。

伊敷村は、面積五八平方町、人口二万五千人で、既に市街地は鹿兒島市に連絡して一帯をなし、その背後の農村地帯は當市の農産物、特に市民生活に必要な主食物、野菜類の自給圏をなすものであり更に將來、農村工業地帯として發展を期待せられる地域であります。

また東櫻島の區域は、面積四四、八平方町、人口五千四百人で自然の景觀に恵まれ、温泉を容し果實類の特産品も豊富であり、正に、大きな特殊資源を有するものといえるのであります。

しかも、磐岩道路の完成によつては、本市と大隅地方との重要な連絡路となり交通上の重要性も決して閑却することの出来ないものがあります。従いましてこの

今後鹿兒島市發展のためには

これら農村地帯における農業技術の向上、並びに經營の合理化を計り、都市近郊農業の特色を發揮せしめると共に、他に比肩すべきものがない、この觀光資源の開

發に努力を傾注して、本市の發展を計るべきものと存するのであります。

都市行政と農村行政とは一見矛盾するようには思はれるのでありますが、都市的な要素と農村的な要素とは、決して無關係なものでありえない。むしろ一方がなくては、他は成立しないのであります。

これら二つの要素の綜合の上に、新しい文化都市を形成してゆくことこそ産業的な立地條件に恵まれない本市の唯一の進むべき途だと思ふのであります。

市域擴張の過程をみるに

顧みますと、本市が明治二十二年市制を施行致しまして以來、數次に亘り、市域の擴張が行われて参りました。

すなわち、第一回は明治四十四年伊敷村の一部、草牟田と西武田村の一部を編入し、第二回は大正九年、やはり伊敷村大字永吉と大字伊敷の一部玉里を編入し、更に昭和九年中郡宇村西武田村及び吉野村を合併して、大幅に市域が擴張せられたのであります。今回の兩村編入は第四次の市域擴張に申せるのであります。

この伊敷及び東櫻島兩村の合併の氣運は、すでに第三次の市域擴張當時からあつたのであります。伊敷村の如きはすでに昭和十六、七年頃には全村舉げて市編入の署名運動が行われた位であります。

越えて昭和十七年十月には、本市議會において、調査委員会が設置せられ、この問題を検討調査し、更に終戦後、隣接町村合併調査委員会が結成され、鹿兒島郡内五ヶ町村を一丸

とした「大鹿兒島市」建設の構想の下に關係團體の間においても熱心に研究が進められ、相互に調査資料の交換も行われ漸く、本論化せんとしたのであります。實現を見ないうちに總選舉が行われ一時中絶しましたが、昭和二十三年七月以來關係市村の間に新たに合併委員会が設けられ、兩村のよ論も完全に一致し、急速に具体化し今日に到つたのであります。

從來の本市の人口は、二十五年四月一日現在で一九万五千人、戸數四万九千戸、面積七八平方町でありましたが、今回は一躍、人口二万五千人、戸數五万五千戸、面積一八一平方町となり、人口及び戸數において一割、面積において二倍余に増加したわけでありました。

先般行われましたシャープ勧告以來、地方自治の確立、地方分権の強化が當面の重要課題となつて居りますことは御承知の通りであります。

これに関連して地方公共團體の適正規模の問題、すなわち地方自治發展のためには如何なる規模の地方團體が適當であるか、というところが論ぜられて居るのであります。さうして、一定規模以上の地方團體を形成するのでなければ、その目的を達成することが出来ないことは明瞭であります。

住みよい市を育てあげてゆくために

こういう時期に住民の自由にして積極的な意志によつて、兩村編入が實現しましたことは、誠に意義深いものと考えられるのであります。

住民多年の希望の達成されましたこの良き日に當り、新たに市民なられた兩村の皆さんは勿論、従來の鹿兒島市民の皆さんにおかれましては、明朗にして住みよい我々の市を育てあげてゆくために一層の御協力を願ひする次第であります。

終りに、今回の兩村編入に際し、絶大な御支援を賜りました縣當局並びに縣議會、その他各方面の方に對し、深甚なる敬意を表しますと共に、今後、鹿兒島市發展のために倍舊の御支援、御協力をお願い致します。私の御挨拶とする次第であります。

明るい希望

(自由詩)

伊敷村から鹿兒島市へ、
急に明るい都会になつたようだ。
大きな希望の喜びが、
みんなの胸にもえている。
市になつたら、僕たちの所にも、
やがては電車やバスが来るだろう。
まるで地ごこの道のような、
土まじりのこの伊敷街道も
今にきつよくなる時が来るにちがいない。
だが、僕たちはあまえていてはならない。
みんな育てるこの町は、
僕たちみんなをよくして行かねばならない。
さうだ、今こそ僕たちは、
胸の中にもえる大きな火をかき立てながらみんなの手をとり助け合つて
僕たちの住みよい町をつくるのだ、
明るい希望のしいゆくて
大鹿兒島市の建設へ力を合せて前進しよう。

この日の喜びを記念して

祝市合併

旅行列の人の波
すつと並んだ大道路
みんなにこころうれし
今日の私は氣も軽い。
ご一つ走る花電車
乗つて人が手をふつて
祝つてくれた天文館
これも私の町なのだ。

ボンシ上つた旗花火
ふみ、ふりむけば櫻島
旗の向うにさつしり
につこり笑つて座つた。

シャープ博士は一体、何を残したか?

さる9月21日、第2次の勸告主文を發表しサツサ本國のアメリカに引揚けたシャープ博士一行については、新聞やラヂオで御承知の方も多しと思われまふ。一体シャープ博士は、どんなことを勸告されたのでしょうか、私たちに最も關係のある市税を中心に見てみましょう。

二度の勸告を通じて流れる一貫した思想は「日本の民主政治をしつかりしたものにするには、地方の自治を強化するのが何より大切だ。その自治を強化するにはまず第一に地方の財政を自立できるようにしてやることだ」という考へに貫かれています。

だから國の豫算が余つたら、いきなり國税だけを減税するとか公共事業に豫算を廻すといふことをしないで、まず地方の財政を強化する交付金(平衡交付金といふ)を増額しない。その上で國税の減税をしなければならない、といつています。

つぎに減税する場合は、中流や上流階層の減税よりも、まずもつて農、漁民あるいは低所得者の税を少くしてやることだ。なぜならば「これらの人達が貯蓄の喜びを感じ動こうという氣持が起らなければ日本の生産は軌道にのらない。況んや、生産意欲が起らないような税のかけ方はよくない」といふところにあります。

こうした點より所得税の諸控除が引上げられ、年所得5万円から15万円の階層の税率は引下げられるよう勸告しています。

また現在の市民税は、前年度の所得が計算の根據になつて居ります。これでは今日のように經濟の變動が激しいときは、時期のズレやその他の不便が多いので、勸告ではその年の所得に課税し源泉徴収してもよい。更にこれまで示された均等割も、それ以上徴収してはいけない、といつて居ります。

また前の勸告では、政府財産に對しては固定資産税をかけないことになつて居りましたがこれも課税することにしたい、と勸告しています。

このほか今度の地方税法では、滞納者の財産を差押え、これを税金に充てる場合、その權利は原則では、國、縣、市町村、いづれも平等の地位に置かれて居るものゝ、國が必要とするときはその金額を地方團體は國に渡さなければならぬ、となつて居りました。

何處も火の車が財政の常。これでは、やはり縣や市町村は國の下に置かれてしまふシャープ勸告は、この場合も互いに平等しました。しかも固定資産税、市民税の債權は國の債權よりも優先することにしております。

以上、シャープ案は自治強化のため、益々地方の財政確立に力を入れた、といふこところです。

御婚服用服飾品・御化粧

大野屋

呉服町本通 電話2796
仲町中通



薄利多賣
有利に仕入れてお安く提供

丸や屋

代表電話3550番



秋から冬への紳士服地婦人服地

豊富に取揃え皆様の御来店をお待ちしています

古き歴史と新しき技術を誇る

洋服の店 菱元

ナカマチ、オツキヤ TEL 2317



